

平成 27 年度 学校運営評価の結果について

今年度の学校運営評価は、昨年度高得点の評価の教育理念・教育目標を除き、教員の教育活動や学生の教育支援に対する評価に重点を置いた。前年度の教育理念や目標に対する意思統一は図れている、という評価をした時点から教職員の移動もなく、昨年度同様に学校運営ができていたことが理由である。

今回は、Ⅰ～Ⅵの評価内容に分類した 79 の評価項目を、当校の教職員の自己評価のアンケートで評価した。より細かい評価ができるよう今年度は、評価の段階を 3 段階から 5 段階に変更した。評価の段階は「 5－よい 4－ややよい 3－普通 2－やや不十分 1－不十分 」である。下記のグラフは、評価内容の平均値をグラフにしたものである。

1. Ⅰ 教育課程・活動については 4.04 でややよい評価となっている。
その中でも、単位履修に関する支援や単位認定基準に関する項目が高得点である。また、看護実践体験での対象者の権利尊重についての評価も高い。これらは教育理念・目標からの教育課程の一貫性から来るものと考ええる。
2. Ⅱ 教授・学習・評価過程については 4.00 でややよい評価である。
講義概要に則った講義ができていることを評価している。また、単位認定の評価に公平性があると評価している。
項目で評価が低いのは、「多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている」が 3.5 である。今後、評価方法を工夫し学生の力を評価できるように取り組んでいきたい。
3. Ⅲ 経営・管理については 3.92 でやや良い評価に近い。学生生活の支援や施設設備に関する項目は 4.0 以上であり支援はできていると評価している。
しかし、本校の地域への広報活動が不十分との評価をしている。これは、受験生の減少や周囲からの認知度の低さが影響していると考ええる。
4. Ⅳ 入学・卒業・就職・進学 3.41、Ⅴ 地域社会 3.56 と両方とも評価が低い。
昨年度も評価は低かったが、評価の段階を 5 段階に変更したためポイントは上がっていると考える。全員の卒業生の動向の情報を収集することが難しいため、効果的に学校運営に生かすことができていない。引き続き課題とする。
5. Ⅵ 研究においても 3.88 と他より低い。教員の教育活動の担当科目と時間配分に関しては 4.6 と評価は高い。教員は専門領域の教授に取り組んでいる。研究活動の体制が不十分であるとほとんどの教員が評価している。

上記の結果より、教育課程に関してはおおむね良い評価といえる。学生への学習・教授方法についても努力していると評価する。平成 28 年の看護師国家試験合格状況からも学生支援ができていると評価する。

昨年度は、念願の女子学生寮も完成し一部ではあるが、学生の環境の改善が図られたと考える。

今年度は、学生の主体的な学びを高めるよう視聴覚教材を整備した。教員も更に自己研鑽に努め、学生への学習や生活支援能力を高められるようにしていきたい。また、地域への広報活動を図っていきたい。

